

弘前市協働によるまちづくり推進審議会 会議録概要（第3回）

日 時 平成29年9月12日（火曜日） 15時00分～17時00分

場 所 弘前市役所新庁舎3階防災会議室 傍聴者 1人

出席者 (18人)	委員 (9人)	佐藤会長、松本委員、小山委員、鴻野委員、安田委員、齋藤委員、久保田委員、八木橋委員、村上委員	
	執行 機関 (9人)	市民協働政 策課	佐藤課長、堀川課長補佐、中村係長、齋藤主査、福土主事
		広聴広報課	原子主幹
	弘前未来戦略 研究センター	森岡副所長、澁谷総括主幹、水口主事	

会議概要

- 1 開会
- 2 議事

「市民参加に関する取り組み」

①パブリックコメント

- 【公募の方法について説明】
- 【説明資料について説明】
- 【結果の公表について説明】
- 【その他の手法による意見聴取の実施について説明】

【各委員の意見等】

委員：パブリックコメントの対象とする政策の基準ってというのはどういう風になっているか気になっていまして。重要な政策等を勘案してってことですが、重要そうだなと思う人も、そうじゃないなというのもあったりするので。

市担当課：市の基本的構想、市政の各分野の基本的方針、計画、重要な改定や、市に関する市政に関する基本方針を定めることを内容とする条例の制定、市民に義務を課し、または権利を制限することを内容とする条例の制定改廃という項目と、必要である場合はパブコメをしてよいという規定にはなっております。実際にやったものについては、ちょっと市民から見ると、どんなものなのかってわかりづらいんですけど、単純に言うと何々計画という風な感じのものが多いです。どういうものかっていうところの説明に関しては難しい話になって、市民にそこ

をどう伝えるかってやっぱり一番大きなところかなと思っております。

委員：今の説明でなんとなくわかりました。基本的な計画の部分に関わる所をパブリックコメントで募集するっていうことですね。たぶんそのことをけっこう市民の方々も、そのこと自体が知られてない所があって、基本的な計画の部分で意見を出していいんだっていうところを、ひとまずお知らせするところはあるのかなって思います。

委員：どんな計画もどんな審議会も、弘前市には基本計画があろうかと思います。例えば「子どもたちの笑顔あふれるまち」、これを目指しているんだってするならば、波状的に計画が組まれていくものですよね。私どもはそれらの基本的なところがちょっとわからないもんですから、スポット的に市の方から出された政策をパブリックコメントで求めますよって出されても、基本部分がちょっと分からない、見えないところが多々あるわけなんですよ。やっぱり基本的なものは何かあるんですよね。

事務局：経営計画が一番上にあって、例えば去年実施したものは分野別の計画になっています。総合計画があって、分野ごとにどう進めていくかっていうのが分野別計画ということで、そういうものを作る時にパブリックコメントをやっているものです。

委員：次期総合計画を7月、8月で市民に訴えて意見交換をやったんですが、具体的な物が何もないものですから。弘前は横文字が多いので。市内26地区を全部やっても意見が出てこないってことは、高度なのか分からないのか、それとも市民が考えていないのかよくわからないけども、出てこなかったのは現実。広く市民に分かるように意見を聞くんだけど、なかなか出てこないというのが今のパブリックコメントに対する、弱体ではないけども薄いのかなと思っています。意見が出てこないんですよ。市政懇談会では別な意見は出るわけですね。例えば道路を作ってくれとか。じゃあ、将来はこれからどうなるのか、コンパクトシティがどうなっていくのか、っていうものは全く見えてこない。題目だけが出てきているわけですね。

委員：意見がなかなか来ないっていうことなので、まずパブリックコメントをや

るっていうことを広報では十分伝わると思います。あとは、どういう風に出せばいいかっていうのも、いろいろな方法を確保していけば可能かなと。ただ、そのパブリックコメントに対して何かを言おうと思うと、この素案なりを知らないという意見が言えないので、そこがすごく大きいハードルのような気がします。概要版を作ることはすごく大事かなと思います。百何十ページの資料を見るっていうのは、変な言い方をすると、わざと意見をもらわないためにそんな資料を作成しているんじゃないかと感じたりして。

委員：期間についても最短15日までで、長いからといって多いわけではないというのも実際そうなんですけど、要綱の中では「やむを得ない事情」があったり、「緊急の場合」は15日に短縮できるという、そういうところは守っていった方がいいのかな。広報に間に合わせるためにはスケジュール管理がすごく難しいことは十分理解はできるんですが、上手く調整して、「原則はそこなんだよ」という期間の確保が必要かなと。それで、広報とかでパブリックコメントを実施しますよと出すとともに、今回については皆さんの生活にこういうような関係あるよと載せて、プラスで何月何日にこの市役所の何階の会議室でこの計画についての説明を行いますので興味のある方は是非、というような、定期的にパブリックコメントをやるにあたっては必ず1回、言葉で簡単に伝える場を設けて説明するっていう姿勢をこちらから出していくというものも少しは有効なのかな。そうすればちょっと興味ある方はもしかすれば、足を運んで来てくれるかもしれないという。

委員：本当に、資料読むだけで「ああ」っていう感じです。なので、パブコメの中でもちょっと噛み砕いて、「このところみんなの意見をもっと集めたいんだよ」と、「この部分についてこうしたらどう思うか」という意見があるとか、より具体的なのを少しやると。「私もそう思っていたの」とか、「私はこうした方がいい」って、この文章ズラズラよりも少しは「んっ」って目を留めるのかなって思うんです。本当に紙だけじゃなくて、そういう風に人が会って話をするっていう方が本当に大切だと思います。そうしたら共感する人がいることによって、そこで話が膨らんでくるのかなというふうに思うんです。

会長：五百何十ページの平たい文章出して、さあ意見を言えっていうのと、ここが問題になってますみたいなね、そういうことですよ。

委員：はい、そうです。関係ある団体にはパブリックコメントをお願いしますっていうのを出しているんだろうけど、そういうところも、平らな公文書ではなくて、「こういうことをどうしますか」みたいな感じの聞き方にすると、私も自分の会の方に広めて聞き取れるかなっていう雰囲気があるんですけども。

委員：去年なんですけども、環境政策課のごみ有料化問題、それで、ある地区では日中、市の方からも人がたくさん来ているんですよ。うちの方のグループも応援する形で行ったんですけど、参加したのが私一人だったんです。夜は二十何人位来ていたけど。他の地区でやった時も、二十何人とそんなに人数が多くはない。市からスライドでも説明するという体制を取っているんだけど、それでもなかなか人が行かない。ゴミが有料化ということは、一番市民にとってこう反発があるんじゃないかなって想像していたんだけど、お金に直接関わっていても人が来ない、意見が出ない、まとまらない実態がありますのでね。

委員：今の件はですね、非常に市民から反発があったのかなと私は思っております。しかし、何回かね、やっていく間に市の方でも折れましたですな。それはまあ、意見を取り入れたということには若干繋がるのかなと思ってましたけど。

委員：まずは「パブリックコメントとは何か」に関するわかりやすい説明がやっぱり必要だと思います。パブリックコメントという表現がかなりわかりにくいので「ご意見を募集します」とかくらいでいいと思うんです。それだけじゃなくて、例えば、こういう意見を伺ってこういう風になったことがありますよみたいなことがあると、もしかしたら反映されるんだっていう感覚が出てくるかなと。例えばこういうことで皆さんの意見を伺って政策に反映させますっていう形くらいの説明は必要かなと思います。あと、概要版なんですけど、資料集にある立地適正化計画のパブコメですが、これが概要版ですか。ちょっとこれでも難しいかなって感じがするので、もっと分かりやすくしないと厳しいかなと思います。あと、全体的に広報ひろさきに少し頼り過ぎるかなというところもありまして、けっこう見逃してしまったりすることもあると思います。市の出先機関だとか出張所だとか、公民館とかにチラシとか置いてもいいのかなという風に思ったりします。ホームページに関して、検索しないと出てこなかったり、すぐに埋もれてしまったりするので、例えば、バナーだとか、コーナーみたいなのを設けて「今、弘前市ではこういうことについて意見を募集しています」くらいのコーナーを作っ

てもいいのかなと。

委員：立地適正化計画の説明会でいろいろ発言したんだけど、もう計画に乗っかってしまって、そぐえない状態ですから。意見を聞くことは聞くけども、意見を聞いて案の修正をするということが欠けてるのかなと。一方的にかなりまとまっていますから、それではダメだっていうのがあるわけですよ。これについてはですよ、ちょっと押し付けだけ。私も行っていろいろ話したけども、その後の回答もなく、そういうような状況でしたということです。

会長：回答の仕方ですよ。パブリックコメントってなんかよく聞くけどもよくわかってないっていうか、浸透してない言葉で、だから、実施状況の公表の方法で広報ひろさき一回で前年度のまとめてやっているわけですね、何件あったとかね。そうでなくて、一回ごとに、何件ありました、こういう意見がありました、これにはこんな風にしました。やっぱり広報ひろさきに毎回毎回載せて浸透をはかると、そんなことが必要かなっていう気がして。

委員：私も学生時代に全国のパブリックコメントの策定状況を調査したことあったんですけど、結構、人口50万人でも1件の募集結果とかがあってというのが結構多くて。そう考えると、タバコの150件は結構多い方かなと思ってびっくりしました。やっぱり、いろんな計画っていうのが何かしら市民の生活に関わってくるっていうことを考えると、策定されることによってどういう風に生活が変わってくるかとか、策定される意味ってのがもう少し見えてくる方がいいのかなと思っていて。この立地適正化計画の広報も国に出す計画をそのまま写したような感じになっていて、せっかく載せてはいるんですけど、分かりやすくてきたはずなのに、ここだけすごい小難しいことが書いているようなイメージ。例えば一文、二文くらいで内容がわかるように表示するであったり、概要も、もうちょっと生活に関わるような表し方が公表の時点では必要かなと思いました。あと、いただいた意見を基にしてどういう風にしてその計画に反映されたかとか、反映されなくてもこう最終的に取りまとめをするっていう風に書かれてはいるんですけど、説明会でいただいた意見とかもどういう風に反映されたかっていう、公表の仕方かなり重要になってくるのかなと思いました。

委員：募集期間に関連するんですけど、たぶん広報ひろさきにパブリックコメン

トを募集するって決めてから広報ひろさきに実際に載るまでに、タイムラグがある、それがちょっともったいないなっていう風に思っただけ。やっぱり、期間が短いと、本当にただでさえ意見がなかったり出にくかったりするんですけど、期間が短いとますます諦めたり、別にいいやっていう風になってしまっただけ。パブリックコメントを実施すると決まったら、広報ひろさき以外の媒体でも掲載したり、ホームページだったり、そういう形で少しでもタイムラグがないようにしてもいいのかなと思います。

委員：百何十ページもあつたりとかあつたりすると、それ全体について意見を述べるのって大変な至難の業なんですよね。ですから、どの項目のどこが問題点なのかっていうことを個々に意見を述べる、述べられるようにしてもらえればいいんじゃないかなと思うんですよ。国なんかは結構そういうパブリックコメントとがありますので。

会長：パブリックコメントってよく聞くんだけど、その意味がどれだけ大切なものなのかのよく分からない、ただ何かやるためにやってるんじゃないかみたいなのがあつたりしてですね。これは大切なんだよっていうのがみんな分かってないっていうか、形式的にしか受け止めていないっていうところがあるかな。

委員：市民にパブリックコメントがどういう風なものなのかのよく分からないのを周知するのが大事だと思います。もう1つ感じたのが、さっきの期間にしても資料の作り方にしても、意見があるごとに全部一個一個にコメントを出しているのはすごいなと、労力やスケジュール管理からすごく大変だなと。私がある立場なら、0件になっちゃうと良かったなと思ってしまう、そうではないとは思いますが。始まって何年か経って、明らかに期間が15日のものが増えて、出す側でも意見を欲しいからやるんだという風な考え方に立って期間とか資料作成とかするといった考え方の原点に帰ることも必要なのかなっていう風には感じていました。

委員：周知、告知の方法がですね、ホームページに載せる、広報に載せる、っていうことなんですけども。それじゃ、広報はとにかく1回載るじゃない、次の時にはたぶんその期間が終わっているんだよね、きっと。ただ、周知する内容をどれだけ、市民の目に触れさせるかって努力、工夫がもっと必要なのかな。例えば、

ホームページなんかであれば、トップページに例えば大きくパブリックコメントってバナーをつけて、「市民から広く意見を募集しています」、「現在はこのことについて募集しています」みたいな目立つような内容がね。そうすると、たまたまホームページを開いた人が、毎回毎回それが目に入るとかね。とにかく周知を徹底させるような工夫をもっとしなきゃいけないなという気がします。

委員：パブリックコメントを募集するのは、市の中でも大きな計画の部分になると思うんですけど、何年度にこういう計画を作り直さなきゃいけないとかっていうのは、ある程度予想できることだと思うので、例えば、「今年度はこういう計画を作る予定です」、「これとこれとこれです」、「これについてパブリックコメントを市民から意見を募集します、する予定です」ということをあらかじめ分かっているでもいいのかなど。その大枠の部分はあると思います。そういう告知の部分もあっていいのかなど。やっぱり、急になんか、何月何日から何日の間にこの部分について意見を出してくださいと言われても、「うっ」って感じがする。

委員：次期計画に対する意見交換会に私もある分野に出席したわけですけども、あらかじめメンツが決まっていますね。本当にそのメンツだけでいいのかなっていう疑問が僕にはあったくらいで。対象者を決める段階で担当部署の人が思い込みでこの方達だけを呼べばOKみたいなことがないのかなというのがちょっと危惧されます。説明会の対象者を決めるにあたって、あらかじめ団体の構成や他に呼んだほうがいい団体をいくつかの団体に聞くというような方針があってもいいのかなって気がしたもんでね。このパブリックコメントの説明会についても同じようなことがなかったのか、それを考慮して。

委員：自分がそのパブリックコメントをやる場合ですけども、まずは質問がわからない。それから、どこがその悩みなのか、問題なのか、そしてどの点に対して、市民の意見を聞きたいのか、意図がどこにも見えてこない。そうしますと、自分はいったい何をコメントすればいいのか訳が分からないんですね。そうすると、パブリックコメントというのは盛んにやられていますけども、はっきり言って多すぎて意味がわからない。出そうと思っても出せない状態の人がかなりおられるじゃないかと思うんです

会長：コンピューターの説明書と同じで、分かっている人はすごく分かっている

でしょうけど、分かんない人はどうやっても分からないって、そのへんがありますね。

②意見交換会等（ワークショップ方式）

【公募及び運営の方法について説明】

【説明資料について説明】

【結果の公表について説明】

【各委員の意見等】

委員：実際、私が参加したときは16名でやったわけですが、前回からずっとこう参加されている方もいて、皆さんが各自いろんなご意見をお持ちなんですね。非常に活発に発言をされていたというのが1つ。それから、市の立場からもいろんなご意見を出されるということで、お互いにお互いがディスカッションしながら進んだことについては、私は高く評価している訳なんです。あのような場面というものを、もっともっと他の場面でも行ってもらえればいいのかなという気がしております。テーマがですね、ひとづくり、くらしづくり、という風な、それらについて参加される方たちに、事前に市の情報を与えて、もっと深い意見を出してもらえるような方法を取れば、より浸透するんじゃないかなと思います。資料がその場にならないと渡ってこないとか、やる目的もその場になって初めて説明がなされて、「ご意見を」って言ってもなかなか意見が出てこないわけですね。事前の資料をもっと早めに提供してほしいという気がします。あと、すいません。先ほどのパブリックコメントのですね、これは報告があった後にあるいは、市民からそれに対する事前意見とかそういったものは頂戴してあるんでしょうか。

市担当課：事前に頂戴はしてありません。

委員：結果公表した訳ですけど、市民の反響というか、受け止め方っていうかはどうな風な感じでしょうか。

市担当課：ホームページでの公表に対しては、正直、反響とかいうものはございませんでした。ただし、先日参加された方が町会関係の意見交換会にも出席して下さいまして、若い人たちとも話ができて、すごく刺激になって良かったという

ご意見はいただきました。一方で、その方はもう少し具体的な話をしたかったと、やはりちょっと少し抽象的な話もあったりして、より具体的にこの取り組みをやっていく部分に集中したようなこう議論をしたかったというご意見をいただいたりですね。一方で、早く次またやろうよってというご意見をいただいたりして、なかなか運営の中でもいろんなご意見があつてですね、そこを求めるのがなかなか難しい部分ではあつたんですけども、いろんな声はいただいております。

委員：パブリックコメントもこれも、公募方法なんですけど、各町会の役員さんにも1人パブリックコメントもしくはワークショップの公募協力員のようなものを作られたらいかがかなと思うんですが。そういった仕組み作りもいいんじゃないかなとは思いますが。

委員：Myひろさき創生市民会議とか、今年度行っている各種団体からの意見交換会とか、意見聴取とかってというのは、パブリックコメントをするもっと前の段階で意見を聴取する方法っていうことで、補うというか、さらに広い意味で意見聴取するっていうことではすごく有効かなと。たぶんこういう意見交換ってというのはまだ参加する側も慣れてないかも分からないんですけど、今後多くやっていくことが求められるでしょうし、すごく大事ないろんな効果があるような気がして。そのために、Myひろさきの意見をまとめて今度の計画に傾向とかを出して行ってやるという風なお話でしたけども、そのMyひろさきに関しても各種団体からの意見聴取にしても、自分たちが出した意見が計画ができあがった時にどういう風に反映されたのかということが、ある程度分かるようにすることによって、反映されるんだとか、意見出すことに対する責任とか、その計画ができあがった後の行動に対する責任とか、そういったものに繋がっていくような気がする。計画できあがっちゃうと文言になっちゃうと思うんですが、前文でもあとがきでも、今回は作成するにあたってこういう風な意見がここらへんに反映されていますよ、みたいなのが具体的に分かるような方法を取っていただければ今後ますます活発になっていくのかな、意見を出す側も慣れていくのかなという風な感じがしました。

会長：やっぱり、結果ですね、結果の公表の仕方がすごく大事で。

市担当課：ただ、意見を行政がもらうだけということではなくて、計画には全ての

意見をまとめて、個々の町会さんからいただいたこの意見はこの分野であるって
いう風な形で整理して、各団体さんに示させていただきたいと思っています。あ
と、団体の意見交換会の方で、参加者ってことではですね、これから私たちも検
討しなければいけないかなと思うんですけども、こういう団体がみんなで集まっ
て話ができる場はなかったっていうことで、感想を数テーマでいただいております
して、副市長からもこういう団体が集まれる場を継続して持つようにという指示
ももらっていますので、今後継続していけるのかなと。

会長：なるほど、名前は別として、こういう形式の会議は続けていくと。

市担当課：こういう形式ではないんですけども、関係団体が集まって、例えば、
文化芸術だったら文化芸術団体が集まっているいろんな議論だったり話し合いをす
る。やっぱり、これまで単発でやっていたコンサートみたいなイベントみたいな
のを、団体が一緒になってやることによってもっと広がりが出てくるんじゃない
かとかですねという話。福祉の分野でもありました。

会長：このMyひろさき創生市民会議のような形式のね、1つの大きなテーマで、
こう7回とか8回作って。

市担当課：いや、そこまではたぶんやれないかと思います。

会長：今年度もやる。

市担当課：まず、計画を作ってから次の段階に。

委員：もう1つ提案なんですけど。まさに「子どもたちの笑顔あふれるまちづく
り」をテーマにしていますから、大学だとか、高校あたりまでの生徒会などへのこ
ういった会合がありますよっていうことでの案内をお出しただけであればいいかな
ということなんですけども。当然、校長先生にお願いするんですけども。そう
すれば、生徒会、高校生も結構こういったものに対しては意見ありますので、中
学生でもあるんですよ。自分自身、前やっていますのでよくわかりますけど。です
から、そういったところの意見も幅広く募集できるということを考えれば、それ
も一つの案じゃないかなと。

委員：パブリックコメントはですね、顔が見えない意見聴取ということでいろいろな意見も出る、それから、意見交換会ってのは、顔が見えますので、そうそう意見が出ないんじゃないかなと思っていましたけども。意見交換会の場合は、いろいろテーマが決まってやっている。そして、それにスピーカーに来ていただいたんで、いい意見が出てくるのではないかなと思っております。ですから、非常にいいのではないかなと思っておりました。そして、この資料の中に、町会などの地域コミュニティ組織の加入割合ってのがこう出るわけですね。だんだん少なくなってきたんですよ。そういう認知的なことを話し合われていただければ大変助かるので、こういう現実のものについて、困ってる団体とかを入れながら、役所との意見交換会じゃなく、市民と市民が「じゃあ、何を、今あるのか」っていうことをやっていただければ、市民がどういう考えを持っているのかというものも取り入れてくれれば、非常に効果的じゃないかな。

市担当課：町会の意見もいろいろ出ています。飲み会でも何でもいいので、町会に参加することを始めてみようとかですね。あとは、町会同士で繋がろうと、町会に加入する人が少ないって言いながら町会同士の繋がりっていうのもあってもいいんじゃないかとかですね。あとテーマを毎回絞ってやっていますので、そういう形で集中した議論ができていくのかなとかですね。

会長：「意見交換会等」っていうのは、市と市民が直接こう、面と面を合わせてやる会議のことを総称してるんでしょうか

事務局：「意見交換会等」とは幅広い感じで「等」ってつけたものです。まず、市から政策の説明をして、お越しになった方から意見をいただくようなものを従来の意見交換会方式としております。ただ、今回に関しては、ワークショップということで、1つのテーマに対してテーブルを複数設けて、いらっしゃった方をある程度班分けをして、そこの中で議論をしてもらおうっていうような形だったので、そういったものをまず、今回新しい取り組みとしてご審議いただくというところもあったので、両方入っています。

会長：そういう市と市民が意見を直接交わすやり方について、いろんな提案をいただける場ということで理解してよろしいですか。

事務局：はい、そうです。手法はいくらでもありますが、集めて意見を聞くという仕組みとしてどうなのかなというところを。

委員：意見交換会っていう、大雑把な中身ですけども、今年、次期総合計画を策定されたとして、その後、テーマがなくてもいいから、分野別みたいな感じで、例えば町会の単位で年1回やっているようなことを、分野別でも「今こうやって動いているけども実際どうだろう」という、実際のその現場の意見を吸収するような、そういう意見交換会を計画して欲しいという気分です。

会長：町会だけじゃなくいろいろな分野とも、そういう町会とやっているようなことをやったらどうかと。

委員：やって欲しいです。具体的に言うと例えば、市民会館を使っているいろいろな団体があるけども、使い勝手はどうだろうとかね。そういうことを言うような、希望を出せるような具体的な場所がないわけですよ。どっかの団体が1つ言ったらそれは全然、説得力ないじゃないですか。だけどそれが、まとまった場に出てくればね、それは1つの広い声になるって。そういう、届ける場所を作って欲しいなって。

委員：次期総合計画ということで、7月8月で市民から意見を聞かなきゃダメだということブロック別にやったわけだけでも、ひとづくりとか、まちづくりとかいろいろあるので、ちょっと具体的にその市民から意見を聞いて作成していけばいいんじゃないかなと思うんです。今はそういうのがあんまりなされていない感じなわけですよ。それが現状と私情とは違う訳ですな。私情ではこういう感じが出てくるわけですけども、現状はこれに合わないのは結構あるわけですよ。そういうところも意見を聞いてもらいたいと思います。これについては、広く意見を聞いて、例えば、なりわいづくりの中でも、弘前市の中心街のことは非常にうまく書かれているんですけども、農業のところとかは果たしてどうなるのかっていう、農家の人って全くわからない、たぶん向こうの人もどうなってこっちに来ればいいのかとか、アクセスがどうなのかとか。現場としては言いたいこといっぱいあるけども、上手く計画には書かれてないわけですよ。そういう意見もね、どんどん次期総合計画の中に入れていただければ市民としても助かるんじ

やないかなと思います。

委員：こういう意見交換会は正式な、いわゆる計画づくりの審議会とは別の場になると思うので、話し合っただうするのとか、そこで意見交換会してどうするのかっていうところが本来は重要で、意見を聞きますって言った時に、たぶんフォーマルな審議会とは別になってしまうので、それをどれだけ反映させられるのかってところが非常に難しいのかなって風には思っているんですけど。先ほど、関係機関に意見を提示するというをやられていると説明はあったんですけど、何かもっとどうすればいいのかなってところで、ちょっと答えが私も出てこないんですけど。例えばMyひろさき創生市民会議だと、かなり何回も回数を重ねて、市民の方々に話し合っただくわけですけども、この場自体が市民の学習の場であり成長の場になると思うので、ただ意見を聞く場っていうだけじゃなくて、この場を通して市民が成長すると。先ほどパブリックコメントの時にそもそも意見がないんだという話もあったと思いますけど、こういう機会を通して自ら考えて行動していくような、主体的な市民になっていく可能性はあるので、そういう可能性としても考えていって、意見を持つことができる市民を作っていくとか、そういう、市民の学びを支援していくってところでの意見交換会としての位置付けっていうところでもいいのかなっていう風に思います。

3 事務連絡

4 閉会